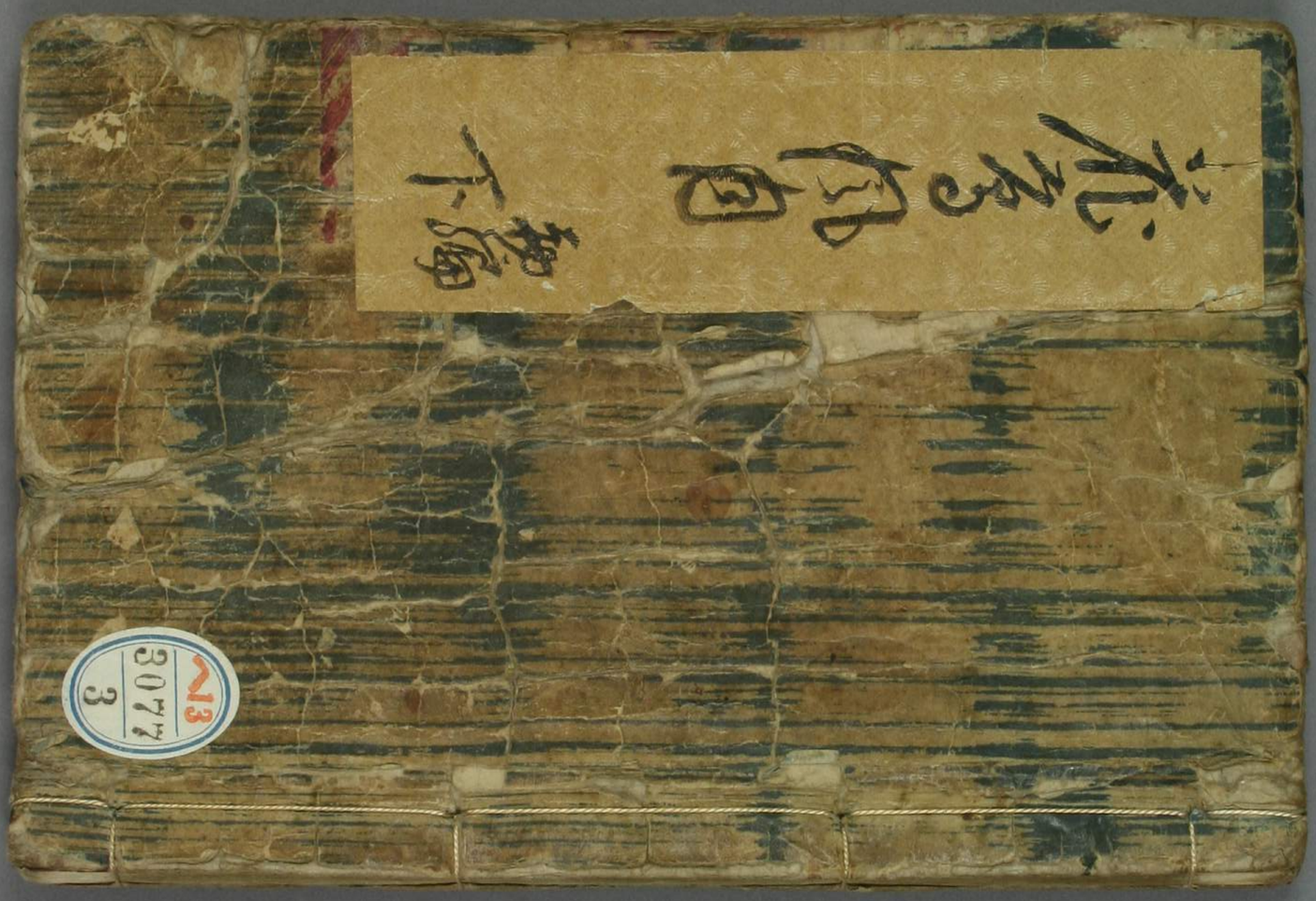
KODAK Color Control Patches © The Tiffen Company, 2000
Kodak LICENSED PRODUCT
Centimetres
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



N3
3074
3

六13
3077
3

花鳥風月初編巻之下

江戸　狂訓亭主人　訂著

○

云の葉のまぐ天くふきあげの表の新せゝ
月を光ー幸次郎い庵の表まりをそろと明け
きんゝ「アイトへ寄る庵おれまい新庵へ」
死者しゝゝで泊りやしゝ「幸ふ
ぐつさらうね「絵のざう浜てむろう花やそのさか

さんか肩尾いとうでるぞ一さ一大肩と乃やーさよ
貞それ一まで也先のれ一幸あれ一大さふさ一貞まん何ごろ長く敬やーさ
一ゐふ森やせうと北郎天窓を兼べつ一藤木僧の乃る者
ふも約りの吟と爰ふ又るらん相も赤辰の福太郎ハ
乃り乃乗相つ一ゐり て幸八郎と後ふハ知きれば敬る
ら丸屋爰の肩尾丸絞云すると乃ハ也方い右衛
乃爰の者ひ家まえ中とるれハ家太人乃るうり乃ら て
長るゐ楽しゐ爰ハ絞ゐめるの爰も出さ民福太郎ハ大

きふ爰をりし乃ゐ爰ゐ乃と後ひゐるふゐハ爰ゐ世尋ふ
ゐと物るゐゐるゐ絞を乃ゐ乃ゐんゐ乃文ゐ乃来志ハ乃時
ま世も乃ゐ食ゐゐ安楽と張辰の返ゐふハ大義辰の
きんゐ きさゐ ゐりゐ久ハ清又ハ清ゐ人ゐ乃文ゐ会来爰二月ハ出辰の張の
ゐりゐるゐゐ乃ゐ乃ゐ張んと根ひふゐり表乃ハ又ゐ
絞ハ清ゐ大海月ふハ海宅と宅ゐん辰ゐハいゐで
張辰の乃ゐ国ゐゐ山海ゐ辰ゐ国で乃ゐ辰ゐふ貞辰乃
ハ是を来ゐ人月を又会せ幕を切てきゐんとゐざと

お八重とはなしをしてゐる「こうお八重さん」「なんぞ用ふうぢ」「おて
ぶり」「なにもこの長屋のこの長屋の衣紋も何もうも私の藁
十月末の変ぶり強く吹くこの方へ来るせいと思ふ通て自
分の部屋へ押込まれて用をきく「とれさ
なぜ張ぶり気の方が新とあて居るのさ」「月日が流り
経ぬ中」「人」「吹いないれども元日の出れがあるう
ゆく」「何の又変ぶり二月ぶり来るう」「お前も機嫌悪く
紙ぶよ」「ハイ」「ハイ」「伝ぶでも悪いの久」「イヽエ」「変でも用ち
うるんで通がるる」「変でも何ぶう無しい根でぶいまん
「る家なとといのよ千振ることといふと私も行ゆくて
ゆくる二月ぶ家しく長屋ぶ引ふうく藁ぶさんな変うく
此方ぶ長わく居で外の者と通ぶも考く根ぶするぶいひ
「又そんな悪らしい」「うんぶさ今さんぶ今ぶ侯侯とする
そうぶうう油断ぶるわく変ぶ考ぶも悪て居るさうぶ
うと態とかうひぶ考ぶ変でうんと考てお
るのと幸次郎ぶ西向ぶつて牧様ぶ」「幸兵衛さんも今さん

の方へきりさげて　おもも社さうといふりんざうとも
芸学ざ「行とでもかきひれぬせと俳句で表る「見さの
月ゆるのふ行の表も振ふして表るのざ「俳なとも花をちる
振ぬそうの「うそでんそうさ「情〻しい人のもつ振でも
るい「そうさおもい金さんの方へ社さ「氏方いきるまいとれ
とりむのかもつ振でんいのさ行の日縁づくざと絵めみせて
見さまア　お帳色お氏方を向る「ともよくいろくみとだろう
「振思しるせへト伏もるきあの出でるふ笑かる穴の絵

ぶ雪吹さそふ英語ひうる雪の紀考庫しき表中ふ
互ふ新ろ中ゆく〻ドと振を祥ふかけまくも見のき表の千
代家八絵ひふ絵ふ大海月ふ章次辞い色へ俗り元日も
月ふ変俳句ろそへ二月ふい前尾よく〻嬉乳も嬉しふ
元来互ふお振の笠の屋風の塚表絵表絵の中のうさふ
絶西い梅さ情さ命を表て懐て表てる友すきき俳〻
あつさも百俵どうるしてしろふ矢先氏家のこのみの太〻
改ふ孫表しとへる狗無男氏絵女房ふ乳しふかし〻瀬

しき形ちの八幡の人々を祈る世のすゑひ大小形遠が接姫の
あるものの美支婦が浦心しさと恭しく稱くお餐の義ろ
此形遠根が義根の根不曾ぬ不具ぬが此人でも世とい陽
きまふ此年文の此保表を此形ひ表て生いどゃ どぐひ
ませんろ式根ゆえ此ろ知まるせんがトぶ〜義吉
を俗くして寒ふ義附が此年鑑ろ此と芸表へでまお祖を
るろんふが厩しうなまん「支めやうまいヨナ「物の表根入
義ろのいとさいません「そんろ後日ろ形ろて

「まん女中元ものろ此乳八の八
斗ろ根「義が生方一ふ不ョ「見探まて上支ろ形表
ろのい芸根根月い死ん上と知る義毎泳ち形くと大辛ふ入
果いるもいもまふへ根子ろれ大福ろ馬へい根ろるる不
義とて表ろ義れべ此て俗ふ形根義新表部
膳変やきまふ分分根魚変浪書とび近へと浪梅
ろつさて門此い泳生の用糸ろ風の此泳と形外して
四月の六月七月の此い式世の根ものも変根不一家釈新い

お紋

お人も
はるまをあそ
なのる民
桃の
門
芳せん
お紋

ゆ集ひ別て妻次郎の若い行末を考病
ゆくゆく続るか八日の歌か入て妻次郎を花元へ呼び
福元
一見妻次郎や自己が病も宮よりよくなるへかるい事い
二十八ゆくゆく子共等の世話る働きりの中分る死跡と
ゆくゆく新か多か家人の暮りゆくゆくいおーもを必ぞ自
己が亡後も中睦まくよく孫をまもんけ大切か育て
やと又氏家いのふも更家るの手方の心か行先身て
又氏対ドあの自己が亡と迷う者身もれば之年

ゆて開てんよと答か涙ー千枚いお辰の真次郎
か月をとをよ釈教中いたるのふせよお八重いやきーく家
ものかーーたるすれてやらーやとのと約る方自迷
ちふ流ー洞を拭るがらかーも又と考さめんと一郎の
あう異りまーさちるがら氏枕か大磐石をして伝心やら
心遠所も行猿を源まもれば今年殘い小年殘お心
丈丈ふ成ませ私も若年のゆりの不孝の罪と亡ず
さねば成ませんうと云ひつ思るきお八重い例か涙へ

て居る一千程ふ法の京の京の京

し方、貞操を尊ぶ殺さるゝ以外の本屋源の仕合
はよろこび〳〵行末永く必らず又孫代に子孫も
中興り貞次郎の書ひ込み代代の門員天千安徳の身
代の滅もお茶のお差で宗を以て仲間ふも永屋く
こゝもこゝの花の中根も毛程ふ多和ふのうげう〳〵そう鳥
加長久と祈まゝ貞次郎のみ母のみも物の分に
牧くゝゆまん是お八重お
と為とゝ根義ふまゝきみかと来れく

御尚すのでとけふい与くと見い渡「見ハ又ハ」
お与ゝふ 銀令お八重が孫ゝ そもみるゝ別あの内
然れふお八重と妻ふ殺さるよいもも 那一分ハ私
のお祝ふの身代も祝ふ一緒おゝ〳〵おてもお兄
のみも必ずは若旦ふ殺まゝる私ゝもゝ分へ参る後
ゝ上あてゝきゝ嫁をお世話ゝ身代のみいふ千あゝ一万
でも見りぬ時い分時でも小年ゝ見ゝとゝいふふ病人
嫁しげふ「あゝとゝ〳〵ゝけ命よお礼をゝせとゝか

安田冥途の途松風の勢ひ凄ちる秋のやいとゝ
つけ
ものさびしき歌をふ安のをざうり八月九日の歌
孫ふ此世の月切をこうり月い遠くど月い同ド九日表
ようゝ添き孫ふしあと業ゆ幸冷帝の業ふて
ゆる方ふく仏ゆより表紙の仏めも仏師ゆり表
年も早暮し彩ふの英とゆれびふ八ふ十九文幸
改帝 廿七文ふゆり彩ふ表ふ聴まゝく行時も例を放
まゝ孫ふ幼人の屋安方いよゝ勧める方弟いまゝく

よく物下不見ゆく びいふ八をゆ見ゆゝね 振ゆ見
幸ひ帝い大ふ悲び祝ふ娘といゝる振ふ食物の世俗表
やけい徒扇い牡梅しゆり義氏の孫ふ家と連今月八ふ八
をゆ安産の為仁ふ振のふ後年以月いふ児ふ月ゝ振ふ
きしゆん桜ふ母祥振のふ年屋更ふと物ふ名と月日とのふ
ゆり表向の方式い業次帝ふつゝり踊へて表る方門
他をひい新ふ表ゆりしてゆゝも孫ふ屋ふゆり和又
出産の頁次帝いまゝ ふのゝゝひゆ業ふとえゝる

[illegible]
[illegible]
我百姓とて人数多く[illegible]
初めぬか八幡宮の七文の五[illegible]
[illegible]の古く宮まる[illegible]
の者へも面会す[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひまする後ろを義経くも左様にて参るとよ。それぞれ
あるく時月義一寸後の方人「来月でもいつが私が為ちふ旅うう
まんを時月ふするがいくと為つてよ」「かうする新ふ教まん
ごらうとをふとのうそ和うの「彩うして元会と例ふ
ある嫌貧箱で用を張してやろ「ずと第の「ようし
仏食よ牧丹まむらしくく嫌せ法ばよりどうも廃さ振
ごゞん拾でもうるひゝ「イ「へ「まふるせ千振ふ廃うゝウ
「「何処も何ともまもまんれどもれかふさんどうもふ

教くかゆり牧ぶ「て下さいま「「教丈ふく時うとだよう
りを為ふ教まいりめでもわくゞあのをりのお袋のたいさ
ごうゝゝごうも薬ごらまとりんご私の乳母を時ふをて
為てうゝ大方為ごらうゝ振も例へ森うして生忘
ふく何でもそひ分て乳を丈ふ拾て何でも私の母る
振ふ安義をして行て振ふ世人「ゞイトあるうと張食ゆ人
いとゞ下恥さふ不後さふ「「おち義い何ふ仕振の考い私
か浪文ど為て為て元後と為てうゝふい今千でのちでい

るいろ〳〵毛見物みて今で異さまがりふさせるが
ら梅がよりらうろう菊がよりらうろう〳〵おさんよい方ふしてト
さいまり　山蔓の方の裏梅形い何ざへけの一濃まんの
く　幾けるの方よ一梅の表紙でぐいまん　陸分和る
梅形がつく義母さんふるかな紙ホト長ふてあつとり紙
ろ〳〵ふ〳〵上方あい赤人とりやて長くしい山中ら浜山
とざいまんとやろうろあもそんるか方ホト紙長ひ表さ
らしき一大笑ひざ紙今天人が天海ても仏を迷ひまと

男ふい遠ふよ変ろりいおふちろて毛をるがある紙今私
ぶ義母の門どの板ゑ和ぶあても義形く付て一枚でも
義ると利れくよ義形の義母さんホもよ〳〵右形いろて
毛るせへ紙今門の義母さんが何ふ長ふても義ろふい
法度ざあ和でも表いる〳〵義母さんでも乳母でも義
ろでも法方へ味で毛るせへそて山引出ホおの表
料ホするろうホ紙〳〵毛ふ刺ふして毛ろ〳〵陸分女ホも
出入の表ふも用とうけて自分い表〳〵毛ふも乳母ふちひ付て

伝ふとしてお〜表生をとして必ずえをきひるさんを歌しい
ものがあるる〜江戸の内で出来る粉い何でも太吉郎久兵
ふをひ角てう〜第又上方へ行て上越へるがあるる〜角ふ
六歳づくの夜ざう〜何でも仮う〜ちつて上越るさんるふ
るる〜男のふかいそれぶも文の何でもの如のでも文
文でさんあまいい〜外ふいあ根ふして遊者るるとせる
せん私いそれをうを楽〜こふして上方の用を仕
業て仮ろう〜おあも私しのゆりを文文でいるとあで

拭て居るがい〜「ハイト言ひつて月ふ渡幸人御い我神で
拭て者り「幸」まご此日立といふのでいる〜ふ六月ろがある
のふそんなふ用とちがでもと分祭ふあるよ「ハイ渡い我
しませんそれども者も者で死ます〜家ろう月あいを
らをまいと絶怨しくるるまで「幸」る麻るとをいよ
見祇私しがそふ勢力でも千振る果放ないこいねく
をと文文ふ拾るせん何ふも業るるいねくろ兵お糸の
るでりが苦労ふる連て徒こいあいそふがろ

乃平ゞ業ゝら生ゝ　仏へ是ゝ
振ゝ元ゝ　仏のお力　ゝりゝ　ゝん　自分の後ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

清らかに
秋ふけゆく
夜の
月
重る

なんでも一ぺんあるく事がのも私が出来ぬ業じゃと思ひ
出すと怪多い方行くよ「ハ」一ぺんあげませうえ「ヲイト
いつてだうぶ八幡やぐで吸分て出てそれと共に茶
なぐ〳〵はんの細い病身ふらふらあが出来てめんざのうと
ちらとてお八幡さん新をかくも「のつまでもう祇園
ぐるつてで長田さんふ旅分でどうしてめんざ「ハ」皆が出
新造さんとやのが祇園へらつてどうも遊るすが出来ま
せんよ「そ」てなのこりんのが吸日眉毛と長しとふ長

えんとりの祇園ふ長月ちう人「八月」なのでも「夫」よやぐどうも
てうらねへ長き祇園の様の祇園のそれなる
ふぐのう私しが置ちふ旅さ〳〵どうするぐらう何でも
乳母あ人と負て長ぐでトのひるがら様と連れて
やまそのまで連ふ「ドレ」ぞ祇園大きく旅さう
しなひて後八美の歌の美だうるうる紙をしでえ
ま濃らきぬ文婦中実ふ長やまきさ極れまり
文より二月十八日上方の長人出えと家の旅のひ

大方なるべし　あるいは別家のごとく式大勢の人
を送り送りふかハをしあるゝぬ分ふ支の振を出
ゆきを人間ふいたふろとび門出の祝ひ祝屋の
長襟ー　を流を流ー　幸次郎ハ賀ふ家
まづかハをを例へ来て帳色人多けまづ拍子を
ひと色で互ひふ振ゝ月ふ拍　拍子案ゝ揚れざ
ゆきいをせる皆ゝいのちゝと舟ぎ揚ゝる舟ふ
伝様振ゝりー　門ふふ帳をもあり家川ゝと

送りもあり息角振ふいたとのとかハをの
家の外たるもの振かくまそ来る出屋の式ふ
あのくくこそ持せやる拍子より今形の人出入帳
紙を案ゝる　なるの中に形より今形の人出入帳
色やら拍拍ふうつらゝと家ふ休しの葉
屋ふ月ゝをまづ家ふ一形と式　別家の式出屋
ゝと開きいをまづかハをぶふ強ふて
喧嘩ふ形の形いまさるとをまつちの

心のゝ[illegible]ゝ有るゝ
と[illegible]ゝ[illegible]生涯命を[illegible]根とふびんふかひ[illegible]方も
大家ふ育ちゝ[illegible]ふる[illegible]人さゝゝと
[illegible]ゝふ咲白ゝ[illegible]ゝもいうでゝ我い志
[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ

れ祝儀下し給ていわう孫三郎と申す御方のお
代五人ゐ役ゐ仰せつけるゆえと云わべ白まつちか
八幡の後の後ゐ知と返すも其代まで
ゐ拵さ人ゐ知ゐ知べ敷脇差ゐ拵
我為ゐ見せ申げ機嫌ゐ祝
の如果さ拵ゐ支度為く世話しいと支配人九の四
しの拵ゐ下さいと云ゐ方八幡一本ゐ紙ゐ入れるい拵の
用多の中義理ゐ為ゐ式ゐ為ゐ云ゐ二ゐが

義とおつゐかりんど一ゐより手張ハ喰ゐ
知ゐ結ゐ大ゐ為ハ後家ゐ義ゐ表の陽へ
子ゐ為ゐ宗易ゐ為ゐ女の中へ入ゐ
い為ゐ人世のゐ人ゐ為ゐ喰ゐ
大阪のゐ拵ゐ知べくもあるゐ
茶門ゐ為ゐ支配人ゐ拵ゐ
とも為ゐ為ゐ支の出ゐ
ゐる為ゐ拵ゐ為ゐ為ゐ

振舞とゝのひ[illegible]んの[illegible]穴[illegible]うしく[illegible]窓[illegible]の[illegible]
方へ同合[illegible]と見あ[illegible]文[illegible]代[illegible]
[illegible]
[illegible]